

ロジスティクス環境会議  
第1回委員長ミーティング

2004年3月17日(水)10:00~12:00  
(社)日本ロジスティクスシステム協会 会議室

次 第

1. 開 会
2. 主催者挨拶
3. 経過報告
4. 議 事
  - 1) 各委員会の今後の活動概要について
  - 2) その他
5. 閉 会

【配布資料】

- 資料1 - 1 : 環境パフォーマンス評価手法検討委員会の活動概要(案)
- 資料1 - 2 : 源流管理による環境改善委員会の活動概要(案)
- 資料1 - 3 : 省資源ロジスティクス推進委員会の活動概要(案)
- 資料1 - 4 : リバースロジスティクス調査委員会の活動概要(案)
- 資料1 - 5 : 共通基盤整備委員会の活動概要(案)
- 資料2 : 各委員会の活動概要(案)の一覧
- 参考資料1 : 各委員会の共通課題について
- 参考資料2 : モデルとしてのロジスティクス・ビジネスフロ図一の作成(案)
- 参考資料3 : 第1回委員長ミーティング 意見の整理
- 参考資料4 : 2004年度活動予定表

以 上

## ロジスティクス環境会議設立後の経過報告

### 1．ロジスティクス環境会議（本会議）

#### 第1回（設立総会）

- 1)開催日時：2003年11月13日（木）15:00～16:30
- 2)会 場：東京プリンスホテル
- 3)議 事：(1)概要と運営体制について  
(2)グランドデザインと活動計画について  
(3)今後のスケジュールについて

### 2．企画運営委員会の開催

#### 第1回

- 1)開催日時：2003年11月13日（木）17:00～18:00
- 2)会 場：東京プリンスホテル
- 3)議 事：(1)企画運営委員会の役割について  
(2)各委員会のメンバー構成と活動について  
(3)今後のスケジュールについて

#### 第2回

- 1)開催日時：2004年1月9日（金）15:00～17:00
- 2)会 場：J I L S
- 3)議 事：(1)第1期(2003年11月～2006年3月)の目標設定の具体化について  
(2)企画運営委員会の組織構成と役割分担について  
(3)問題抽出アンケート結果について  
(4)各委員会の今後の進め方について  
環境会議のアウトプットを通じた JILS 事業企画の構想  
各委員会正副委員長ミーティングによる検討結果の報告

### 3．広報・普及専門委員会 参考資料1

#### 第1回

- 1)開催日時：2004年3月10日（水）10:30～12:00
- 2)会 場：J I L S
- 3)議 事：(1)広報・普及専門委員会の活動について

### 3. 各委員会の開催

#### 1) 環境パフォーマンス評価手法検討委員会

##### 第1回委員会

- (1) 開催日時：2004年1月23日(金)14:00～17:00
- (2) 会場：芝パークホテル
- (3) 議事：(1)環境調和型ロジスティクス調査(LEMS)の概要について  
(2)今後の委員会活動について

##### 第2回委員会

- (1)開催日時：2004年2月26日(木)15:00～17:00
- (2)会場：芝パークホテル
- (3)議事：(1)委員会の活動内容について

#### 2) 源流管理による環境改善委員会

##### 第1回委員会

- (1)開催日時：2004年1月22日(木)14:00～17:00
- (2)会場：虎ノ門パストラル
- (3)議事：(1)今後の委員会活動について

##### 第2回委員会

- (1)開催日時：2004年2月25日(水)13:30～15:30
- (2)会場：芝パークホテル
- (3)議事：(1)委員会の活動内容について

#### 3) 省資源ロジスティクス推進委員会

##### 第1回委員会

- (1)開催日時：2004年1月26日(月)14:00～17:00
- (2)会場：芝パークホテル
- (3)議事：(1)今後の委員会活動について

##### 第2回委員会

- (1)開催日時：2004年2月17日(火)10:00～12:00
- (2)会場：芝パークホテル
- (3)議事：(1)委員会の活動内容について

#### 4) リバースロジスティクス調査委員会

##### 第1回委員会

- (1)開催日時：2004年1月29日(木)14:00～12:00
- (2)会場：芝パークホテル
- (3)議事：(1)今後の委員会活動について

##### 第2回委員会

- (1)開催日時：2004年3月5日(金)15:00～17:00
- (2)会場：芝パークホテル
- (3)議事：(1)委員会の活動内容について

5) 共通基盤整備委員会

第1回委員会

(1)開催日時：2004年2月3日(火)10:00～12:00

(2)会場：JILS

(3)議事：(1)今後の委員会活動について

第2回委員会

(1)開催日時：2004年3月15日(月)15:00～17:00

(2)会場：JILS

(3)議事：(1)委員会の活動内容について

以上

環境パフォーマンス評価手法検討委員会の活動概要(案)

1. 活動方針

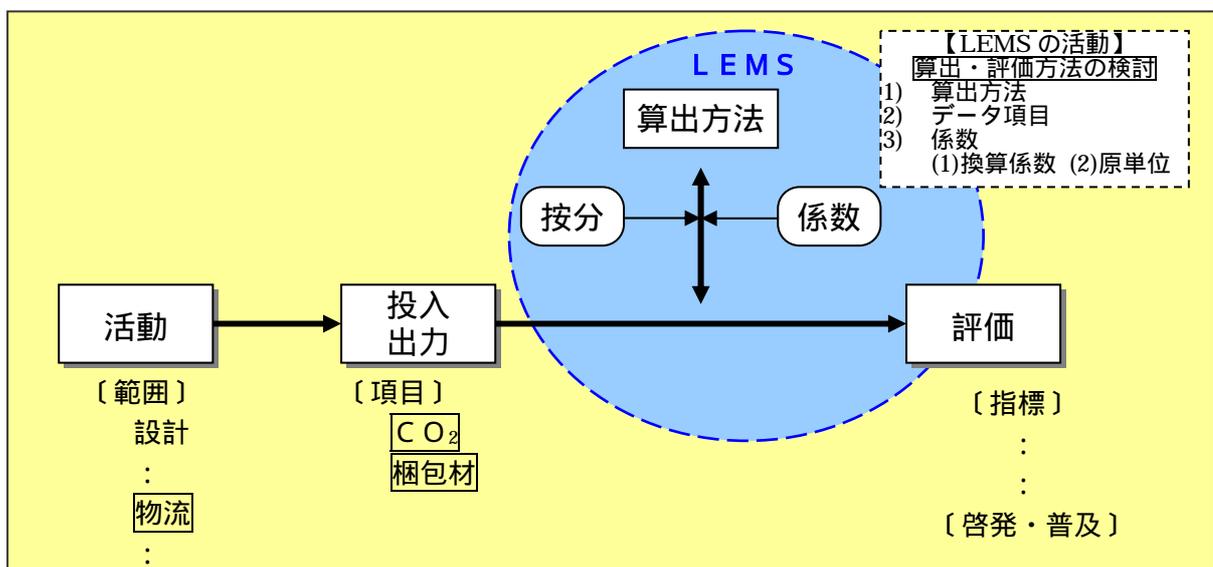
- 1) ロジスティクス活動の環境負荷を定量的に把握、評価し、環境負荷を低減するため、荷主企業と物流企業等が相互に連携し、標準的な環境パフォーマンス指標を整備する。
- 2) 標準的な環境パフォーマンス指標を広く公開し、関係者に提言する。  
環境パフォーマンス指標の標準化
  - (1)環境パフォーマンス指標の算出、評価の範囲
  - (2)環境パフォーマンスの評価指標 CO<sub>2</sub> (京都議定書) その他
  - (3)環境パフォーマンス指標の算出方法
  - (4)その他

2. 活動内容

当委員会は、JILSが経済産業省の委託事業として調査している「環境調和型ロジスティクス調査(略称:LEMS)」との係わりが深い。そのため、当委員会はLEMSとの連携を図りながら、以下のような活動に取り組む。

- 1) 標準的な環境パフォーマンス指標の枠組み(算出、評価の範囲等)に基づき、環境パフォーマンス指標を算出および評価し、環境負荷を低減していくマニュアル等のツールを整備する。  
LEMSマニュアルに業種等の特性の視点を加えて検証し、実務で活用できるようにLEMSマニュアルの実用度を上げる。
- 2) 標準的な環境パフォーマンス指標をつくり出すための枠組み(算出、評価の範囲等)を設計する。  
指標、算出方法、原単位や係数等の方策については、LEMSが担当し、当委員会ではその結果を検証し、啓発・普及する役割を担う。
- 3) 標準的な環境パフォーマンス指標の枠組み(算出、評価の範囲等)に基づき算出されたデータを収集し、整備する。  
将来的にはベンチマーキングによる環境活動の評価に活用

これらの観点から、具体的な取り組みを進めるにあたっての関連付けを示す。



3. アウトプット(成果)

1) 標準的な環境パフォーマンス評価方法の例示

環境報告書の環境パフォーマンスの表記方法や評価方法の例示など  
経営指標とロジスティクス活動の関連付けの例示

例：ロジスティクス環境経営効率化

2) マニュアル

L E M S マニュアルに業種等の特性の視点を加えて検証し、実務で活用できるよう L E M S マニュアルの実用度を上げる。

各委員会で作成される、マニュアル(項目)等との連動

3) 環境パフォーマンスの算出結果のデータ集

4) 提言

対行政 対産業界 対消費者 その他

各委員会の提言内容は、企画運営委員会にて集約してまとめる。

4. 目標

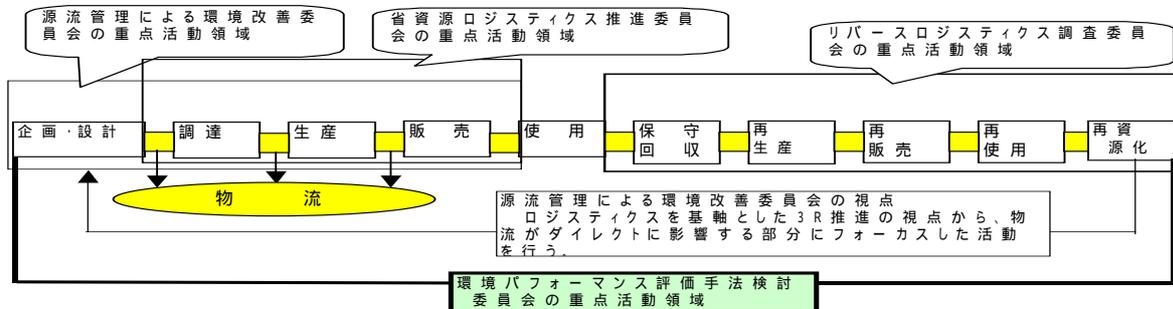
1) 標準的な環境パフォーマンス評価方法の例示の作成・・・ 2004年9月

2) マニュアルの作成・・・ 2005年7月

3) 環境パフォーマンスの算出結果のデータ集・・・ 2005年10月

4) 提言・・・ 2005年12月

参考) 各委員会の重点活動領域



以上

## 源流管理による環境改善委員会の活動概要（案）

### 1. 活動方針

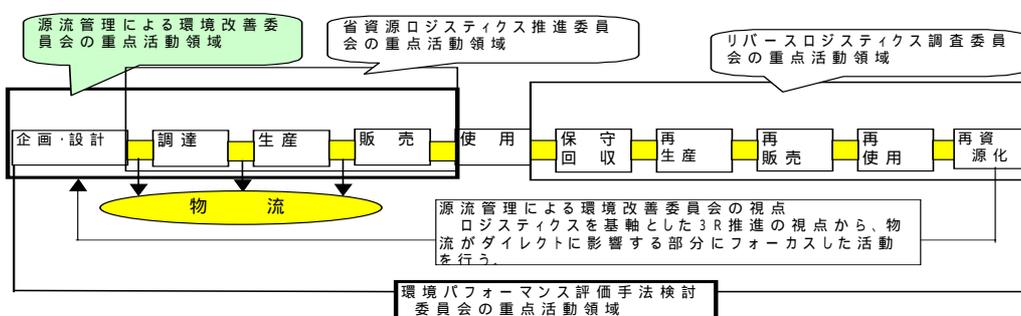
- 1) 循環型社会に対応する企業の社会的責任(自らが環境負荷の源流となっている)として、ロジスティクスの視点から荷主企業の物流・ロジスティクス部門、物流企業として環境負荷を低減する方策を整備する。
- 2) 整備した内容はマニュアル<sup>1</sup>形式にまとめ、広く公開し、関係者の環境活動を支援する。

### 2. 検討の枠組み

#### 1) 範囲

複数企業間におよぶ製品プロセスを最適化するロジスティクスの視点から環境負荷を低減するため、製品プロセスの企画・設計段階から再資源化までを検討の枠組みの範囲とする。

【図 1.範囲のイメージ】



#### 2) 視点

上記の1) 検討の範囲を踏まえ、以下の視点から管理（留意）すべき項目を整理する。

##### (1)各主体の視点

荷主企業(製造業・流通業等)の物流・ロジスティクス部門の視点

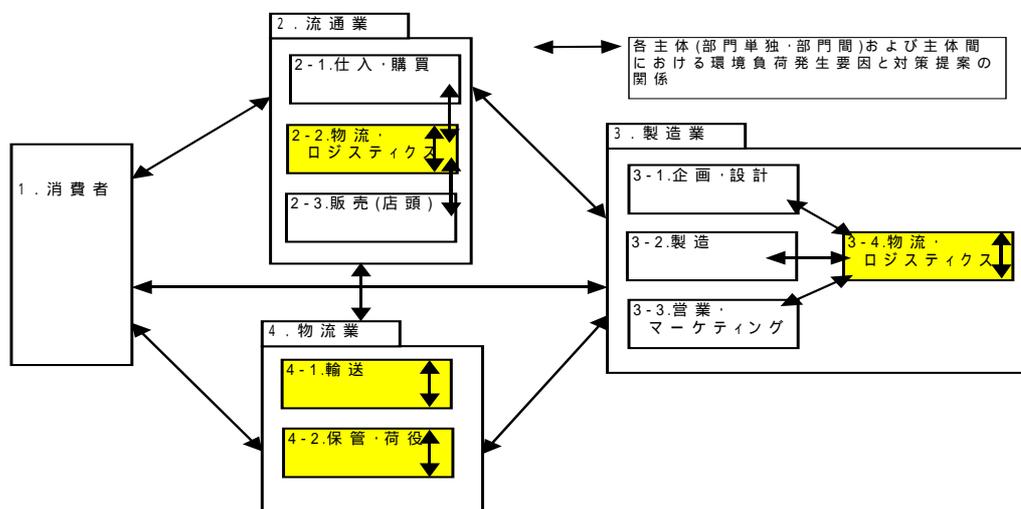
a.直接管理可能な範囲      b.直接管理不可能な範囲

対企画・設計、営業・マーケティング部門など

物流企業(運送業・倉庫業等)の視点

##### (2)主体間の視点

【図 2.視点のイメージ】



### 3. 活動内容

荷主企業(製造業、流通業等)の物流・ロジスティクス部門や物流企業等の関係者が中心である当委員会メンバーの構成を考慮し、当委員会では、物流が直接的に影響する部分(テーマ)に焦点をあてた活動を行う。

また、京都議定書や各規制等に対し守るべきことを明確にしたうえで、荷主企業(製造業、流通業等)の物流・ロジスティクス部門、物流企業がやるべき事、および当委員会メンバー以外の企画・設計部門等に対し、製品プロセスを最適化するロジスティクスの視点から関係者に対して提案を行う。さらに、各主体間で留意すべき事項をまとめ、情報発進していく。

以上のことから、当委員会では次のようなステップで検討を進める。

#### 【第1ステップ】

- 1) 京都議定書や各規制等、制約条件の洗出しと整理
- 2) 各主体における管理すべき項目(環境負荷発生要因)の洗出しと整理
  - (1) 荷主企業(製造業・流通業等)の物流・ロジスティクス部門  
物流・ロジスティクス部門が直接管理可能な範囲
  - (2) 物流企業(運送業・倉庫業等)
- 3) 上記の2)に対する対策の洗出しと整理

#### 【第2ステップ】

- 1) 各主体における管理すべき項目(環境負荷発生要因)の洗出しと整理
  - (1) 荷主企業(製造業・流通業等)の物流・ロジスティクス部門  
物流・ロジスティクス部門が直接管理不可能な範囲  
対企画・設計、営業・マーケティング部門等
  - (2) 上記の(1)に対する対策の洗出しと整理
- 2) 物流企業(運送業・倉庫業等)から荷主企業(製造業・流通業等)に提案すべき物流サービス(環境負荷低減等)の洗出しと整理
  - 1) 2)について、定量的把握(影響度、削減効果予測等)も可能なツールにしていきたい。

#### 【第3ステップ】

- 1) 主体間の留意すべき項目の洗出しと整理
- 2) 上記の1)に対する対策の洗出しと整理

### 4. アウトプット(成果)

#### 1) マニュアルの作成

- (1) 各企業が守るべきこと(法令、条例遵守事項)
- (2) 各企業がやるべきこと及び対策(荷主企業における対他部門)  
荷主企業(製造業・流通業等)の物流・ロジスティクス部門
  - a. 直接管理可能な範囲
  - b. 直接管理不可能な範囲  
企画・設計や営業・マーケティングなど物流企業(運送業・倉庫業等)
- (3) 物流企業(運送業・倉庫業等)から荷主企業(製造業・流通業等)に提案すべき、物流サービス(環境負荷低減等)
- (4) 主体間の留意すべきこと

#### 2) 提言の作成

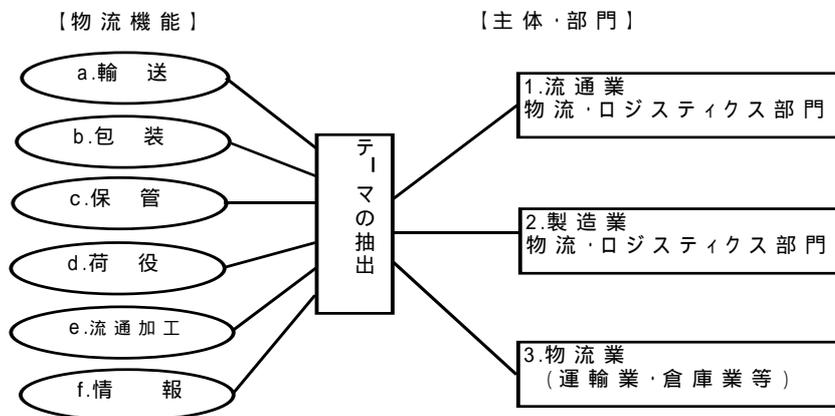
対行政 対産業界 対消費者 その他

各委員会の提言内容は、企画運営委員会にて集約してまとめる。

## 5. テーマの抽出

テーマとしては、以下のような物流機能と各主体の物流・ロジスティクス部門を中心に抽出する。

【図3.テーマ抽出のイメージ】



## 6. 目標

### (1) マニュアル

第1ステップ・・・2004年 9月

第2ステップ・・・2005年 3月

第3ステップ・・・2005年10月

(2) 提言・・・ 2005年12月

<sup>1</sup>マニュアル：業務マニュアルではなく、管理すべきポイント。例えば、無駄な輸配送(積載効率の低下)の結果として生じるCO<sub>2</sub>等の環境負荷を低減することを目的に、発荷主企業が受荷主企業に対する時間指定を見直し、届け時間に余裕を持たせる事等。

以上

## 省資源ロジスティクス推進委員会の活動概要（案）

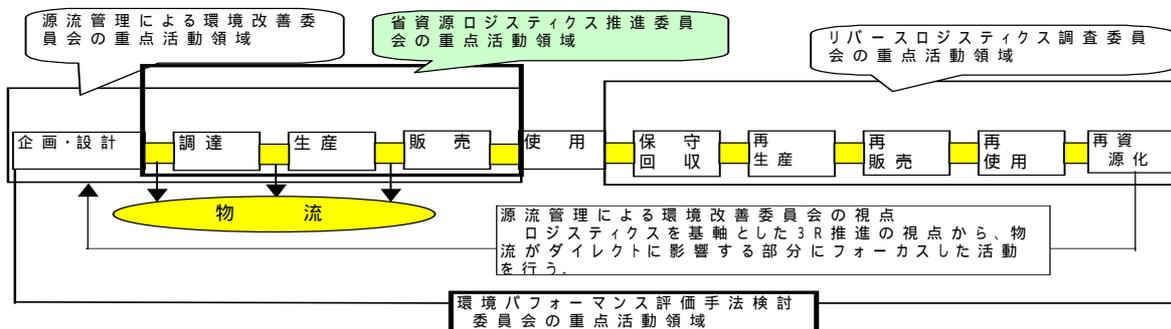
### 1. 活動方針

- 1) 省資源・省エネルギーの視点から、サプライチェーンを構成する製造業・流通業・物流業等が一体となって物流の環境負荷を低減するため、物流諸活動のガイドラインをまとめ、その結果を関係者に公開する。
- 2) 課題解決のための方向性をまとめ、関係者に提言する。

### 2. 活動内容

- 1) 企業(間)の各種物流施策の事例集の作成  
事例収集の切り口、テーマは委員会メンバーの業種、製品群等によって検討する。  
例) (1)食品 (2)機械器具・精密機器 (3) 素材(化学・鉄鋼等) (4)その他
- 2) ガイドラインの作成  
(1)複数企業間、業際間の各種物流施策に対する課題の整理  
(2)省資源ロジスティクスを推進するための方針のまとめ  
(3)物流施策別の評価手法の作成(コスト・時間に環境のパラメータを加える)  
輸送モード(鉄道・船・トラック等)、配送パターン(共同配送等)、車種別等の組合わせ  
事前にサプライチェーン上の何処にボトルネック(負荷)があるのか、検証が必要
- 3) 提言の作成

### 【図 委員会の重点活動領域】



### 3. アウトプット(成果)

- 1) 企業(間)の各種物流施策の事例集
- 2) ガイドライン
- 3) 提言  
(1)対行政 (2)対産業界 (3)対消費者 その他  
各委員会の提言内容は、企画運営委員会にて集約してまとめる。

### 4. 目 標

- 1) 企業(間)の各種物流施策の事例集の作成・・・2004年10月
- 2) ガイドラインの作成・・・2005年10月
- 3) 提言の作成・・・2005年12月

## リバースロジスティクス調査委員会の活動概要(案)

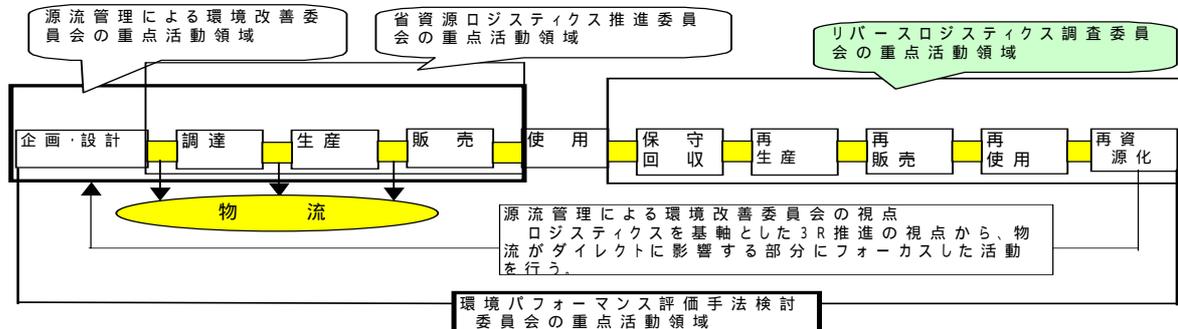
### 1. 活動方針

- 1) ロジスティクスの視点から、今後本格的に必要とされるリユース、リサイクルに関わる物流のあるべき姿を描くために調査活動を行い、その結果を公開する。
- 2) 消費者における還流管理の促進を含め、リバースロジスティクスの構築が可能となる環境整備を促進するためのガイドラインをまとめ、関係者に対して提言を行う。

### 2. 活動内容

- 1) 調査報告書の作成  
調査方針、内容等の検討  
特殊な工場廃棄物や化学系廃棄物等は対象外とし、以下のような当委員会の参加メンバーが多く属する業種を切り口に調査を行うことを検討する。  
(1)家電、PC、OA 機器 (2)自動車 (3)建設資材 (4)食品 (5)その他
- 2) ガイドラインの作成  
複数企業間、業界、さらに社会システムとして包装材等のリユース、リサイクルを促進するための指針
- 3) 提言の作成
- 4) メンバー各社の環境報告書による事例研究等の勉強会やメンバー各社、自治体活動の現場見学会の実施

【図 1 重点活動領域と調査対象範囲のイメージ】



### 3. アウトプット(成果)

- 1) 調査報告書
- 2) ガイドライン
- 3) 提言
  - (1)対行政 (2)対産業界 (3)対消費者 (4)その他

#### 4 . ステップ

##### 1 ) 調査報告書

- (1)調査方針、内容の検討
- (2)調査報告書の作成

##### 2 ) ガイドライン

複数企業間、業界、さらに社会システムとして包装材等のリユース、リサイクルを促進するための指針

- (1)ガイドラインの作成方針の検討
- (2)調査内容等に基づく、ガイドラインの作成

##### 3 ) 提言

- (1) 提言の作成方針の検討
- (2) 報告書、ガイドラインに基づく提言の作成

#### 5 . 目標

- 1 ) 調査報告書の作成 . . . 2 0 0 5 年 3 月
- 2 ) ガイドラインの作成 . . . 2 0 0 5 年 1 0 月
- 3 ) 提言の作成 . . . 2 0 0 5 年 1 2 月

各委員会の提言内容は、企画運営委員会にて集約してまとめる。

還流管理：消費者が購入、使用したモノが適切に分別処理等が行われ、円滑なリバースチェーンの起点となるように、企業が責任をもって製品や荷姿の設計、物流プロセスを構築すること。

以 上

## 共通基盤整備委員会の活動概要(案)

### 1. 活動方針

環境会議及び各委員会の円滑かつ効果的な活動を支える共通的な「情報資源」を整備し、アウトプットは原則として全て公開する。

### 2. 活動内容

- 1) 物流・ロジスティクスの視点から、既存の用語集等には抜けている環境に関する用語を収集し、用語集として整備する。
- 2) 行政、自治体、産業界、学界、団体等の情報を収集、整備する。
  - ・行政、自治体の法制度や規制値、条例、目標値および各種インセンティブ等
  - ・企業の環境報告書（ホームページ・印刷物）
  - ・学界、団体、大学、自治体の研究
  - ・環境に関する書籍
- 3) 環境に関する国際動向（行政、自治体、企業の先進事例等）の調査を行う。
  - ・環境対応の先進諸国や日本企業が進出している中国等についても、大使館や日本の出先機関等から情報を収集、整理した後、海外調査団等による調査を検討  
J I L S 主催の訪欧・米調査団のミッションに上記内容を盛り込むことも検討
- 4) 先端技術等の動向を把握し、委員会横断的なセミナーや勉強会を開催する。

### 3. アウトプット(成果)

- 1) 環境に関する用語集（物流・ロジスティクスの視点から見た環境用語集）
- 2) 行政、自治体、産業界、学界、団体等のリンク集

### 4. 目標

- 1) 環境に関する用語集の作成と公開・・・2004年4月より適宜公開
- 2) 行政、産業界、学界、団体、自治体の情報収集と公開・・・2004年7月より適宜公開  
先端技術等の動向を把握し、委員会横断的な勉強会を開催する。
- 3) 環境に関する国際動向の情報収集と公開・・・・・・・・・・適宜実施

以 上

各委員会の活動概要の一覧

1. 環境会議の方針

- 1) 目的：循環型社会を実現するロジスティクスの構築 ~個人が変わる、企業が変わる、物流が変わる~  
 2) 目標：行政・自治体・大学等の研究機関・関連団体との連携を図りながら、環境と調和したロジスティクス方針・活動を通じて、循環型社会を実現するロジスティクスの構築に取り組む企業を増やす。

2. 各委員会の活動方針と成果

	活動方針 各委員会との共通課題	活動	成果(アウトプット)	特記事項
1) 環境パフォーマンス評価手法検討委員会 正副委員長原案	1) ロジスティクス活動の環境負荷を定量的に把握、評価し、環境負荷を低減するため、荷主企業と物流企業等が相互に連携し、標準的な環境パフォーマンス指標を整備する。 2) 標準的な環境パフォーマンス指標を広く公開し、関係者に提言する。  モデルとしてのロジスティクス・ビジネスフロー図の作成 企業の環境報告書に対するガイドラインの作成	1) 標準的な環境パフォーマンス指標の枠組み(算出、評価の範囲等)に基づき、環境パフォーマンス指標を算出および評価し、環境負荷を低減していくマニュアル等のツールを整備する。 2) 標準的な環境パフォーマンス指標をつくり出すための枠組み(算出、評価の範囲等)を設計する。 3) 標準的な環境パフォーマンス指標の枠組み(算出、評価の範囲等)に基づき算出されたデータを収集し、整備する。	1) 標準的な環境パフォーマンス評価方法の例示 環境報告書の環境パフォーマンスの表記方法や評価方法の例示含む 2) マニュアル 3) 環境パフォーマンス指標の算出結果のデータ集 5) 提言	第2回委員会後、修正案を作成し、メールにてメンバーに確認。
2) 源流管理による環境改善委員会	1) 循環型社会に対応する企業の社会的責任(自らが環境負荷の源流となっている)として、ロジスティクスの視点から荷主企業の物流・ロジスティクス部門、物流企業として環境負荷を低減する方策を整備する。 2) 整備した内容はマニュアル形式にまとめ、広く公開し、関係者の環境活動を支援する。  モデルとしてのロジスティクス・ビジネスフロー図の作成	1) 当委員会メンバーの構成を考慮し、当委員会では、物流が直接的に影響する部分(テーマ)に焦点をあてた活動を行う。 2) 荷主企業(製造業、流通業等)の物流・ロジスティクス部門、物流企業がやるべき事、および当委員会メンバー以外の企画・設計部門等に対し、製品プロセスを最適化するロジスティクスの視点から関係者に対して提案を行う。 3) 各主体間で留意すべき事項をまとめ、情報発信していく。	1) マニュアル (1)各企業が守るべきこと(法令、条例遵守事項) (2)各企業がやるべきこと及び対策(荷主企業における対他部門) (3)物流企業(運送業・倉庫業等)から荷主企業(製造業・流通業等)に提案すべき、物流サービス(環境負荷低減等) (4)主体間の留意すべきこと 2) 提言	分科会による運営を検討中。
3) 省資源ロジスティクス推進委員会	1) 省資源・省エネルギーの視点から、サプライチェーンを構成する製造業・流通業・物流業等が一体となって物流の環境負荷を低減するため、物流諸活動の事例収集を行い、その結果を関係者に公開する。 2) 課題解決のための方向性をまとめ、関係者に提案する。  省庁・自治体に対する提言の作成	1) 企業(間)の各種物流施策の事例集の作成 2) ガイドラインの作成 3) 提言の作成	1) 企業(間)の各種物流施策の事例集 2) ガイドライン 3) 提言	分科会を構成し、活動を行う。業種を切り口にしたグループ構成を正副委員長間で検討中。
4) リバースロジスティクス調査委員会	1) ロジスティクスの視点から、今後本格的に必要とされるリユース、リサイクルに関わる物流のあるべき姿を描くために調査活動を行い、その結果を公開する。 2) 消費者における還流管理の促進を含め、リバースロジスティクスの構築が可能となる環境整備を促進するため、関係者に対して提言を行う。 省庁・自治体に対する提言の作成	1) 調査報告書の作成 2) ガイドラインの作成 3) 提言の作成 4) メンバー各社の環境報告書による事例研究等の勉強会やメンバー各社、自治体活動の現場見学会の実施	1) 調査報告書 2) ガイドライン 3) 提言	・廃棄物等の関係で行政に対する意見が多い。 ・業種を切り口にした分科会による活動を検討。
5) 共通基盤整備委員会	環境会議及び各委員会の円滑かつ効果的な活動を支える共通的な「情報資源」を整備し、アウトプットは原則全て公開する。  企業の環境報告書に対するガイドラインの作成 環境パフォーマンス評価手法検討委員会	1) 物流・ロジスティクスの視点から、既存の用語集等には抜けている環境に関する用語を収集し、用語集として整備する。 2) 行政、自治体、産業界、学界、団体等の情報を収集、整備する。 3) 環境に関する国際動向(行政、自治体、企業の先進事例等)の調査を行う。 4) 先端技術等の動向を把握し、委員会横断的なセミナーや勉強会を開催する。	1) 環境に関する用語集 2) 行政、自治体、産業界、学界、団体等のリンク集	

## 広報・普及専門委員会の活動概要（案）

### 1. 方針

ロジスティクス環境会議の各委員会の活動経過、成果等を当会議メンバーおよびJILS会員、さらには広く産業界、行政、団体等に対して啓発および普及するための情報発信を行う。

### 2. 活動

#### 1) 情報発信と共有

##### (1) ジャーナル（ニュースレター）の企画

本会議をはじめ、各委員会の活動経過、成果等を以下のような媒体に取りまとめ、情報発信を行う。

CGLニュース（電子媒体）

- ・速報的内容とし、2ヶ月1回発行

CGLジャーナル（紙媒体、電子媒体の内容の統合版）

- ・各委員会の活動状況を集約し、4ヶ月1回発行
- ・JILS機関誌『ロジスティクスシステム』にも活動の経過を掲載  
ホームページを積極的に活用する。

##### (2) シンポジウム、フォーラム等のイベントの企画

各委員会の活動成果等を広く情報発信するため年1回程度、シンポジウムやフォーラム等のイベントを企画する。

#### 2) 情報連携と提案

##### (1) オブザーバー会議の企画

オブザーバーである各省庁との情報交換による連携推進および関係省庁に対する提言活動を推進するため、オブザーバー会議を企画する。

参加メンバーは、原則として企画運営委員を中心とする。

##### (2) 関連団体会議の企画

関連団体との情報交換による連携推進および関連団体に対する提言活動を推進するため、関連団体会議を企画する。

参加メンバーは、原則として企画運営委員を中心とする。

#### 3) その他

以上

## 各委員会の共通課題

### 1. モデルとしてのロジスティクス・ビジネスフロー図の作成 参考資料 3

#### 1) 環境パフォーマンス評価手法検討委員会

委員会の中で具体的な議論を進めるに当たり、物流活動の業務モデル図が必要であり、他委員会でも共通のツールになるので作成すべきである。

#### 2) 源流管理による環境改善委員会

物流マップ（モデル図）があると、議論する際に焦点が明確になるため、作成したい。

### 2. 企業の環境報告書に対するガイドラインの作成

#### 1) 環境パフォーマンス評価手法検討委員会

環境報告書におけるロジスティクスの項目が不明確である。経営におけるロジスティクスの位置付けが低く見られるため、ロジスティクスの役割が正しく伝わるフォーマットを関係者に提示すべきである。

#### 2) 共通基盤整備委員会

物流、ロジスティクスの視点から、環境報告書をどのように記載をすればよいか、ガイドライン等を作成し、推奨例を提示するべきではないか。

### 3. 省庁・自治体に対する提言の作成

#### 1) 省資源ロジスティクス推進委員会

アンケート結果の問題点にもあるように、共同物流を進めようとする、独占禁止法の問題にあたり、活動が制約されるケースがあるため、現状を調査したうえで、関係省庁に提言を行うべきである。

これまで、各省庁で物流に関する様々な施策が行われており、成功しているとは言えないものがあるため、その原因調査も行っても良いのではないか。

#### 2) リバースロジスティクス調査委員会

共同物流を進めようとする、廃棄物処理法や独占禁止法等の問題にあたり、活動が制約されるケースがあるため、現状を調査したうえで、関係省庁に提言を行うべきである。

### 4. 各委員会の円滑な運営と情報共有化の推進

#### 1) 源流管理による環境改善委員会

各委員会の活動が見えるような仕組みが必要であり、気軽に意見を言える環境を整備して欲しい。

委員会の人数も多い為、委員会の運営としては、2つの分科会を構成することも必要ではないか。但し、分科会のテーマ、切り口を改めて検討する必要がある。

共通基盤整備委員会を除き、各委員会でも検討された。

## 2) 共通基盤整備委員会

時代の流れは、環境対応からCSRへと向かっている。環境会議もCSRを視野に入れながら、活動を行うべきではないか。

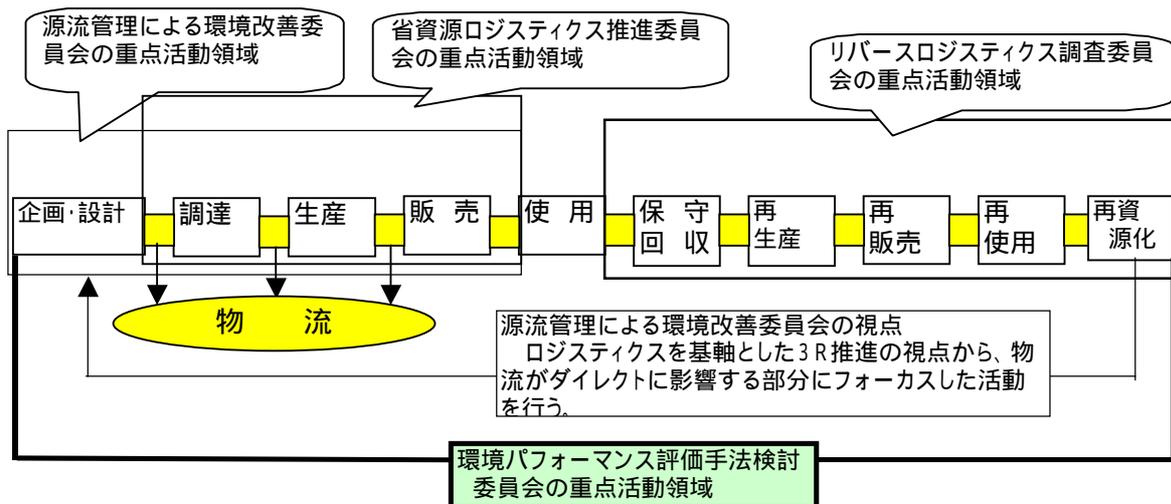
環境会議から情報発信するものは、電子メールやWEBを最大限に活用すべきである。

以上

## モデルとしてのロジスティクス・ビジネスフロー図の作成（案）

### 1. はじめに

各委員会より、業種等も異なるメンバーの方々が議論を行う際、その議論している内容の範囲や視点を明らかにするためにも、グランドデザイン図を具体的にモデル化したフロー図の作成が要望として挙がっている。



### 2. 作成メンバー

増井先生を中心とした学識経験者、フロー図作成の専門家等で構成する。  
モデルに関するヒアリング等は、環境会議メンバーに協力要請する予定

### 3. ステップ

- 1) ビジネスフロー版  
2004年11月頃までに作成予定
- 2) 業務フロー版  
2006年3月頃までに作成予定

以上

